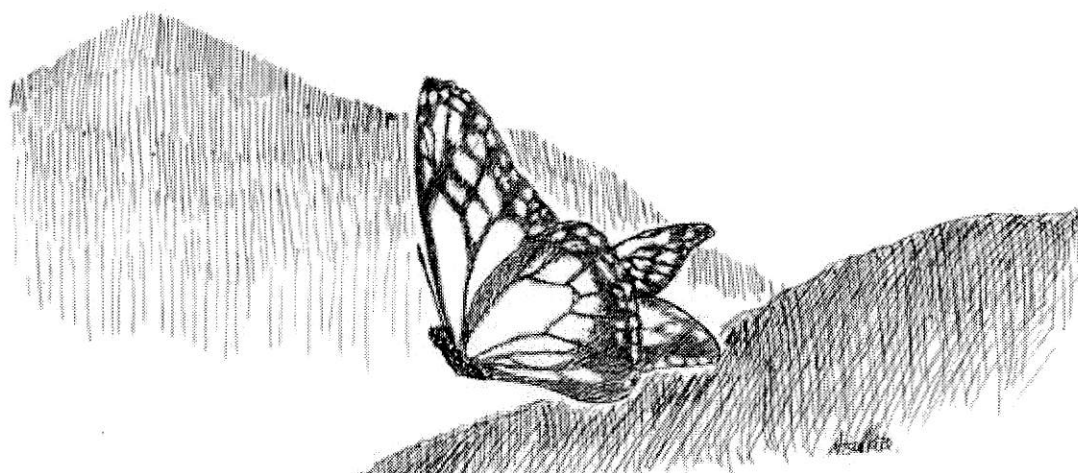


協議会ニュース 114号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2007. 9



アサギマダラ

海越え、山越え、渡るアサギマダラ。

今日 あなたが会ったこのチョウ、明日は見知らぬ土地を舞う。

イラスト・文…名古屋支部 渡辺敦

野鳥研修

オオキンケイギクの調査について

ふるさと親子自然観察会

面の木園地の植生

「ホタルの観察」所感

牛の滝及びその周辺の自然観察会

会員のページ 下条ランドについて

観察会あれこれ 自然のしくみ・その5

自然セレクション100

香嵐溪のシーズンオフ

理事会記録

事務局だより

行事案内・編集部だより

大谷敏和……………P2

吉田彰……………P3

小山舜二……………P4

堀田信二……………P5

中島芳彦……………P6

村上和彦……………P7

奥居達朗……………P8

岡田慶範……………P9

……………p10

……………P11

……………P12

野鳥研修

尾張支部 大谷 敏和

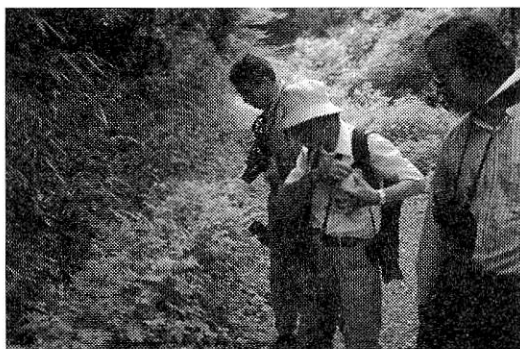
日時 6月30日(土) 9時～12時
 コース 海上の森センター ～ 赤池
 講師 日本野鳥の会 元愛知県支部長 佐々木和治さん

PR不足や雨の予報のため参加者は思うように集まらず、講師の佐々木さんには、はるばる津島から下見も含め2度足を運んで頂き恐縮しています。でも、以前海上の森に深く関わってこられた方だけあって、初期の万博計画の話や当時の海上の森の様子のお話を聞き有意義に時を過ごすことが出来ました。「ここを開発して・・・その後・・・」とか「ここでよくサンコウチョウを見た」とか「オオタカがあそこによくとまった」とか「森がなくなるんだったら採っていても・・・」とか。

今年も、サンコウチョウを「ここで見た」という情報が入ってきましたが、我々は下見を含めサンコウチョウに出会うことができませんでした。2年前、巣の下で、カメラマンが陣取っている姿を見ましたし、散策道路は手入れもされずササが生い茂ってきました。観察会は、鳥を見たり花を見たりするだけではありません。生きもの

がそこで見られるにはそれなりの理由があります。何年か前の様子を頭に入れながら生きものどうしの関わりあいを見るのも観察会の目当ての一つです。「どんなものをえさにしているのでしょうか？」森が変われば当然そこに棲みつく虫たちも変わるはずで、ムラサキシキブの花に集まってくる虫やシロシタホタルガの交尾、マイマイガの幼虫を観察しながら鳥のえさとの関係に思いをめぐらせました。

それにしてもサンコウチョウがここで見られなくなったのは「ただその日に会えなかっただけ？」なのか「万博後散策する人が多くなった？」のかわかりません。なお当日見た鳥、鳴き声を聞いた鳥は、ホトトギス、ウグイス、ハシブトガラス、イカル、コゲラ、ツバメ、ヒヨドリ、ヤブサメ、カケス、ヒガラ、キビタキでした。講師の佐々木さん、ありがとうございました。



コゲラ

オオキンケイギクの調査について

調査担当 吉田 彰

春から初夏にかけて、道端などで普通に見かけることのできる黄橙色のコスモスによく似た花。今年度の当協議会の調査対象に選んだ「オオキンケイギク」は、「いつの間にか」ごく普通に見かけることのできるありふれた植物のひとつです。

私たちの身の回りにある植物をよく調べてみると、その多くは「外来種」、つまり人の手によって国外から持ち込まれたものであることに気がつくられることと思います。

オオキンケイギクも、もちろんこのような外来種のひとつです。しかし、多くの外来種とは異なり、「特定外来生物」つまり、生態系へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある植物として指定がされています。

今、私たちの身の回りの生きものたちの世界は、大きな変化の過程にあるように思えてなりません。自然の環境そのものはもちろんのこと、自然を構成する種についても、いつの間にか、しかも多くの人たちが気づかないうちに、在来種が外来種に「置き換わって」いるように感じています。特に特定外来生物に指定された種については、その強い生命力と高い適応力により、瞬く間に日本の自然の中に入り込み、在来の種の生息場所を奪っているのではないかと感じています。

今回のオオキンケイギクの調査を通じて、より多くの方々に特定外来種の問題を理解していただくとともに、自分の周囲の自然の変化に気がついていただきたいという想いがありました。

また、調査に協力をいただいた方の中には、一步進んでオオキンケイギクの駆除に取り組まれた方もありました。残念ながら、駆除をしようとした場所(河川敷)にオオキンケイギクを持ち込まれたという人の猛烈な反対にあい、中止せざるを得なかったとのことですが、外来生物問題の根本にある、ごく普通の人たちの自然観の低さを実感することとなりました。

ところで、私も自分の生活圏(西三河と知多周辺)で、多くのオオキンケイギクの姿を目にしました。個人的な感想ですが、オオキンケイギクは人がいちど手を入れ放置された荒地やほかの植物



があまり生えていない道路端によく見られました。一方で、在来の植物がしっかりと根付いている場所では、あまり見ることがないように感じました。

この場を借りて、報告書をお送りいただいた方に感謝申し上げます。

また、皆さんの身の回りでもオオキンケイギク見ることができたかと思います。

写真はなくともかまいませんので、記憶をたどって、ぜひ報告書をお送りください。ご協力をお願いします。



廃線となった西中金駅周辺での群生

面の木園地の植生

奥三河支部

小山 瞬二

愛知県自然観察連絡協議会主催の「ふるさと親子自然観察会」を面の木園地で開催しました。

日時 6月16日(土)10時～15時
場所 面の木園地(北設楽郡設楽町)
テーマ 面の木園地の植生
参加者 大人14名 こども7名
指導員 10名(支部会員)

観察会当日は、名古屋、瀬戸、豊田、豊橋、湖西(静岡県方面)から21名と、ビックリするほど大勢の参加者を迎え、支部会員も気合いが入りました。

面の木園地は津具高原の北側で、標高1000～1300mに位置し、中心部に天狗棚があります。展望台からは奥三河の集落(津具)が望まれ、遠く南アルプスの絶景が広がり、その眺望と涼風に「天狗はこの場で団扇を扇ぎながら天下を見ていたんだなあ」と思わずつぶやき、参加者に失笑されてしまいました。

神戸指導員から配布された園地の「植生でみる自然」についての資料を基にブナ、ミズナラ、ウリハダカエデ、モミジガサなどから形成されている植物群落の説明や、この園地は標高、等温線ではブナ、ミズナラなどの落葉広葉樹林の植生域であるなど丁寧な説明に、フィールド・ワークを通じて参加した子供はもとより大人まで「樹林の生存とその仕組み」の不思議さ、偉大さについて真剣に学びました。

熊谷指導員からは得意分野の植物やカエデ、メグスリの木などの生きた教材から丁寧

な説明がありました。

他の指導員も下見(5月27日)で現地の状況を把握していましたので、野鳥や草花などそれぞれの得意分野で指導、観察会を盛り上げました。

筆者は魚類以外は「能」がなく、参加者が迷わないよう、最後尾を守りました。

参加者の中で、植物にすごく熱心な妙(迷)齢のご婦人がいつも集団から遅れがちで、やきもき。当の本人はへっちゃらで「私はいつもそうだから、先に行ってて・・・」とすずしげな顔。ここは天狗棚、熊も出たとか出ないとか、こんな危険な場所にご婦人1人を置き去りにはできない。「しんがりさん、さあ、行った!行った!」と急き立てるのも参加者全員の安全を率いる指導員の一役と、その任を全うしました。

こうして、面の木園地のふるさと親子自然観察会は参加者にも喜ばれ、会員も達成感を得て、とても有意義な観察会で終了することができました。これも、幸いしたお天気と高山特有の涼風が、自然満杯の奥三河の私たちに味方していただいたことと感謝しております。



ふるさと親子自然観察会（西三河支部）

「ホタルの観察」所感

西三河支部 堀田信二

日 時 6月16日（土）

午後6：30～9：00

天 気 快晴

場 所 おかざき自然観察の森

参加者 128名

（大人60人、子供68人）

指導員 10名

（石黒、岩月、奥居、中西、深見、堀田、水谷、三田、山下、吉田）



▲観察前の解説と注意

天気快晴。総勢138名の受付を終了し、いよいよ観察会が始まりました。外はまだ明るく、説明にはやや早い気もしましたが、始めました。観察前の解説と懐中電灯の使い方などの注意を一通りして、午後7：00に3班に分かれて順次出発。

下調べでは“午後7：40前後に発光開始”との記録でしたので、「誰が一番ボタルを見つけるだろうか」と期待していました。待機する間、他の班の指導員の方も熱心に解説されていて、感激でした。

なかなか発光しないので、「1分間でも待つのは長い」と感じ、痺れを切らせて帰ってしまいそうな雰囲気が漂い始めた頃、「光った！」との第一声！

皆さんが殺到する中、指導員の指示で近づきすぎないように小川の対岸から観察。第一声の後から、続々とゲンジボタル、ヘイケボタルが輝きだしました。

2分後くらいから飛翔も始まり、いっぺんに美しい小川べりになっていきました。午後7：43でした。

午後9：00前、「もう帰るぞ」との親ごさんの声に、小さな子供たちは泣き出します。やがて「帰りたくない、もうちょっと」とだだをこねていた小学校中高学年生たちも、未練を残して戻っていきました。

文字通り子どもが多い親子観察会でした。何より事故も無く、子供たちや親ごさんにも印象深い夜になったことと思います。

ふるさと親子自然観察会

牛の滝及びその周辺の自然観察会

東三河支部

中島 芳彦

日時 6月24日(日) 9:30~12:00

天気 雨

場所 豊川市長山町 牛の滝周辺

「歩いて体感しよう山麓の自然と風を」をテーマとし、「牛の滝」地区と「わくぐり神社」地区を巡回する約4km弱の本宮山山麓観察コースを設定し、散策しながら自然観察を実施しました。

降雨と移動距離の長い本観察会に来客者があるだろうかと不安でしたが、悪天候にもかかわらず参加者は一般26名、会員20名でした。観察開始に先立ち参加者総員で行ったリラックス体操は、準備運動と共に、指導員と一般参加者との隔たりを少なくすることができました。

最初の観察事項は、妙劉寺境内に展示されているムササビの巣を観察し、展示の経緯を住職さんに説明してもらいました。

次いで山門で野鳥の鳴き声に耳をすましましたが、雨音が気になり集中力を欠くようでした。



▲野鳥の観察風景

さて、これからが牛の滝までの長い移動です。途中、コナラ林から杉林になり、その後放置され荒廃した里山の現状を観察し、傘の行列は牛の滝へと歩を進めました。

境川は、本宮山の南東山腹に源を発し豊川に流入する全長4km弱の小川です。牛の滝は、この川の中程に位置し、落差10m程の「雄滝」と4m程の「雌滝」の2段の滝を形成しています。滝の飛沫を浴びながら、滝のでき方や周辺の地形、地質の観察をしました。

また滝周辺はシイ、タブノキ、モチノキ、カ



牛の滝(雄滝)

シ等の照葉広葉樹林で、常に適度な温度と湿度が保たれ、特にシダ類が多いことを観察しました。しかしシダ類は見分けが難しく、ツルコウジに興味を持つ人が多かったようです。

「わくぐり神社」への復路は、平坦な道路で気分転換がないと足が止まりそうです。このため、地図の読み方やハルウコンの花を観察しながら散策しました。

「わくぐり神社」の社叢は豊川市指定の天然記念物で、牛の滝と同様の樹相を有し、オオゴキブリの生息も期待できそうです。神社の謂われ等説明後薄暗い森の中に入り、鎮守の森を体感し、なぜ保護する必要があるのか考えてもらいました。

降雨時の観察会は、種々問題もありましたが一番うれしかったのは、参加者から、「雨の日には味わえない観察会、大変おもしろかったよ」との一言でした。

下条ランドについて

奥三河支部 村上 和彦



▲下条ランド・ユースホステル

私が経営する下条ランドは、現在ユースホステルとして活動しています。長野県の下伊那へ移転して開所したのは平成5年6月です。その前は静岡県佐久間町（現浜松市）の山の中で青少年を相手に12年活動していました。

長野へ来た頃から、青少年からお年寄りへと対象が変化してきました。世の中の体質の変化とでも云うのでしょうか、若者の求めるものが多様化して、旅は眼中に

入らなくなってきました。車や携帯電話、コンピューター等、お金がかかるものが多く、自然に触れ旅に出る人間は、もっぱらシルバーになってしまいました。

それでも今年は、大阪を中心とする中学生の修学旅行等を11校受け入れ、1回5名程度ですが、体験農業を行いました。その時は体に血がたぎります。施設は6名室を2室で、12名定員ですので、大勢を受け入れることはできませんが、青少年と膝をまじえて話ができますし、若者達の考え方・感じ方を吸収することができます。下条ランドのまわりは、自然観察には適したエリアで、背に下条山脈をいただき、前に南アルプス、左に中央アルプスで、下に村上農園が1ヘクタール存在し、体験農場となっています。長野県の自然保護レンジャーを務めていて、担当が南アルプスなので、毎夏、南アルプスへは入っています。また、県の鳥獣保護員でもあり、担当している天竜川をはさんだ泰阜村と下条村の巡視に廻っています。

下条ランドの行事としては、夏の南アルプス登山、低山ハイキング、自然観察会、農業体験等ですが、一つひとつが多彩です。自然観察会をみても、天体観察、バードウォッチング、水生昆虫・昆虫観察（特にギフチョウ）、石の観察、動物観察（特にカモシカ）、植物観察（特にカタクリ、ザゼンソウ）等で、特徴としては、募集はせずその時の宿泊者で行っている点です。

南アルプス登山も、登りたい人から電話があつて、行き先、日程を度々連絡して決定し、案内する方式です。1回は2名までです。低山ハイキングも、宿泊者が行きたいところへハイキングする方式です。

以前は募集して恵那山などに登っていましたが、大勢になって負担が大きいのので、募集はやめることにしました。あくまでもボランティアに徹し、私の実力に比例して行うようにしています。

今夏に長男と尾瀬に行く約束をしました。楽しみにしています。

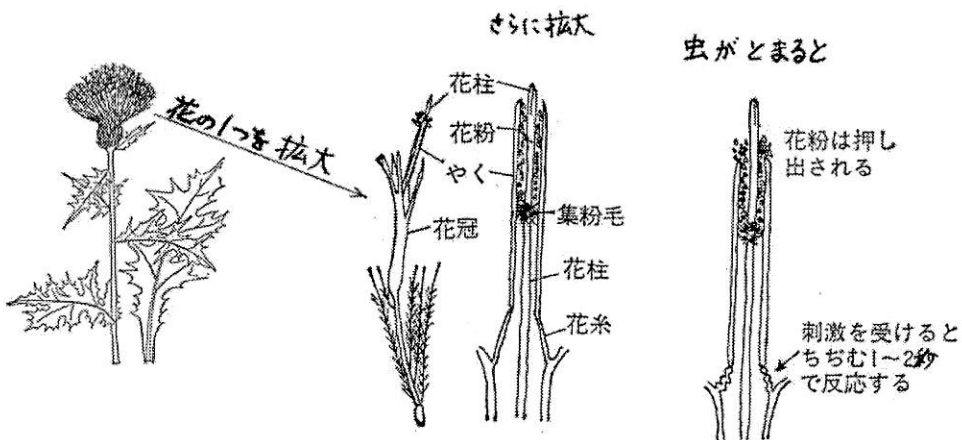
5月頃から11月頃まで野山を彩る花に各種のアザミがあります。今回は、アザミの花の巧みな送粉の仕掛けについて観てみます。

アザミの花を観ていますとチョウやハチの仲間がよく蜜を吸いにやって来ますので、虫媒花であることが判ります。皆さんもよくご存知のように、アザミはキク科に属し筒状の小さな花が多数集まって一つの花のように見えています。花は外周部から順に内側へ咲いてゆき、始めは雄性期で後に雌性期となる雌雄異熟の花で、この場合雄しべが先に熟すので雄性先熟です。雌雄異熟は、子孫の遺伝子の多様性を確保するための仕組みの一つで、自家受粉しないようになっているわけですね。

さて、本題の送粉の仕掛けですが、咲き始めのもの（雄性期の花）の先を軽く刺激する、例えば細い棒で撫でると、その後すぐに白い花粉がムクムクと出てくるのを観ることができます。これは、蜜を吸いに来た昆虫が花に留まり、筒状の花の中へ長い口を差し入れて蜜を吸うのですが、アザミの花のほうでは、虫が留まった刺激を感じ、花粉を出して虫の脚や腹に付けるのです。そして次に他の花へ運ばれ受粉するのを期待しているのです。では、どんな仕掛けで花粉が出てくるのでしょうか？

アザミの小さな一つ一つの花は、筒状の花冠の中に雄しべの筒があり、さらにその中に雌しべの花柱が立っています。花粉は雄しべの上部の筒状の葯から出て、花柱を取り巻くように配置されています。他方、花柱には中ほどのところに、集粉毛という瘤状のふくらみに毛が生えている部分があります。花は、昆虫が留まった刺激を感じると雄しべの下部の花糸が縮んで葯筒を引き下げます。そのときに葯筒の中の花粉も一緒に下がろうとしますが、集粉毛によって邪魔されて動けず、ところてん式に上へ押し出される形になるのです。

雄性期を終えた花は、雌しべが熟し雌性期となるのですが、このときには雄しべは、縮んだ状態で、且つ雌しべも伸びて突き出ていますから、集粉毛が外からも見える状態になっています。これから各種のアザミが咲きますから、この送粉の仕掛けの観察がしばらくの間可能です。反応が早く面白いと思いますので、まだやったことのない人は一度試してみたいはいかがでしょうか。



《 図：岡村有他著 植物観察事典より引用 》

香嵐溪のシーズンオフ

西三河支部 岡田 慶範

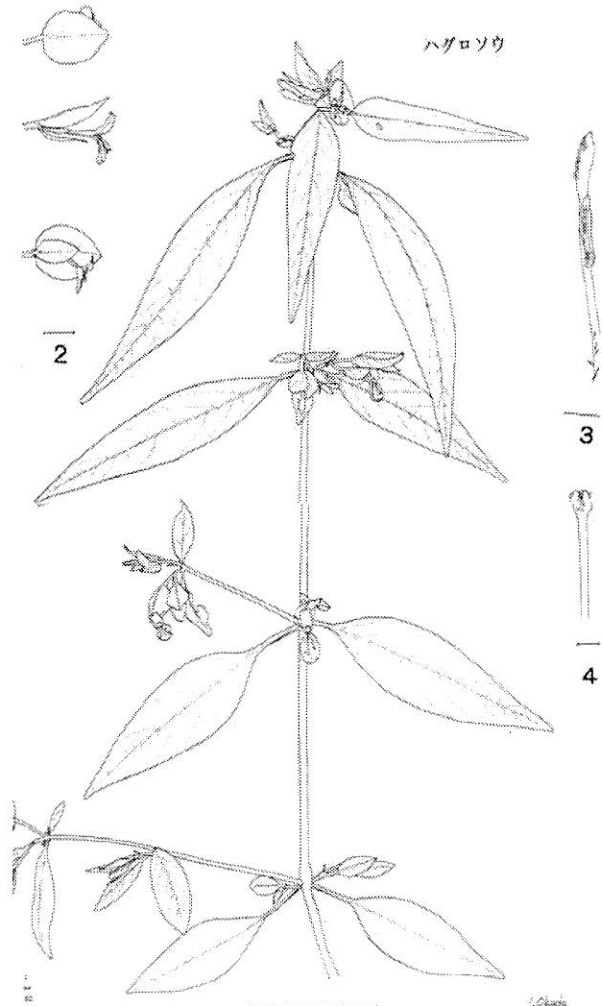
香嵐溪というと、春のカタクリ、秋の紅葉で有名なところです。みなさんも出かけられたことがあるでしょう。渋滞に悩まされて……。そのような時期をはずせば、小鳥のさえずる声が聞こえ、川のせせらぎの音が気持ちよく聞こえてくるところです。

昨年『飯盛山の早春賦 増補最終版』と『飯盛山夏秋語草』を出しました。手元にある方は超ラッキーです。

右の絵の説明をします。このハグロソウは、キツネノカミソリの近くに生えていますが、雑草とばかりにバッサリと切られてしまいます。(キツネノカミソリを目立たせるためにか?)

【葉黒草】? 【齒黒草】? どっち? お齒黒でこの草を使ったという記録はないから【葉黒草】の方でしょう。半日陰のところにくらして、緑色が濃いからこういわれるのでしょう。

ここは地衣類も豊富なところ。『香嵐溪の地衣類』が手元にある方は超超ラッキーです。「フトネゴケ」が全国で5例目の発見地、そして非常に珍しい「キンブチゴケ」があります。豊田市役所足助支所から香積寺に行くまでの数百メートルの間に70種くらいあり、狭いところに多くの種類があるすばらしい所ようです。



第2回理事会議事録

日時：8/4（土）13:30～ 16:50

場所：愛知県勤労会館 第1視聴覚室

出席者：松尾、鬼頭、降幡、石田、近藤、
永田、布目、堀田、山田、吉田、吉川、滝田、
樋口、梶野、三田、小山、

進行：鬼頭 記録：石田

議題：

1. 理事改選にあたって・・・理事候補・理事改選数など

吉田理事から提出された提案書に基づき検討した結果、内規として以下の項目を決定

- 一般の理事については、3期（6年）までとする。ただし、特別の理由があると認めるときは、理事会の承認を得た上で1期のみ延長することができるものとする。
- 理事の改選については、全理事のうち長期に就任しているものから3分の1程度を改選する。この内規を念頭に、新理事候補者を各支部で検討する。

今期で辞任表明の近藤事務局長の後任候補として、松尾会長が浅井さん（名古屋支部）に就任意向を聴取する。

2. 総会 20 年 3/20（春分の日）（講演会）
講師リストアップ

テーマから講師を検討した結果、多数決により以下のとおりとなった。

（）内は講師連絡担当者

第1候補 温暖化（気象）について 愛教大 大和田教授（近藤）

第2候補 森林生態学について 名古屋大学 只木名誉教授（石田）

第3候補 生物多様性について ビオトープを考える会 長谷川会長

3. 事業担当者決定（19 年度事業の未確認項目）

■12/24（月）午前：新指導員歓迎会

→ 担当・内容の検討

企画担当：堀田理事が大谷理事と協議して



検討

■12/24（月）午後：研修

→ 担当確認・内容の検討

研修担当：大谷理事

内容は、生物多様性について ビオトープを考える会 長谷川会長が提案されたが、大谷理事欠席のため意向を確認の上早急に決定。（研修会が長谷川さんに決まった場合は、総会は別講師を検討）

◎会場確保が必要（予定：中京大学文化市民会館）

4. 11 月の指導員講習会の講師の件について（愛知県からの依頼）

- ①地元講師として植物・動物・地質の3名選任

植物：松尾会長 動物：神戸さん（東三河支部） 地質：間瀬さん（東三河支部） なお、松尾会長が 11 月 9 日は平日で参加困難なため、10 日に実施することを NACS-J へ伝える。

- ②最終日の講師を8名程選任

上記3名の他、近藤事務局長、降幡副会長、樋口支部長、山田理事及び西三河支部より3名

- ③講習会受講生に対する協議会への加入勧誘（協議会、支部入会の意義・特典などを説明）を、近藤事務局長（講習会初日から）及び永田理事（2日目から）が行う。また、説明時間の確保について NCS-J 及び県へ石田から依頼する。

次回：12 月 1 日（土）午後 1 時 30 分～

場所 中京大学文化市民会館大会議室

議題 総会議案内定（次年度事業について案の持ち寄り）

お知らせ

■ 愛知県発行

「海上の森 夏の自然観察ガイドブック」
完成

「自然観察ガイドブック」第2弾として、見出しのハンドブックが愛知県より発刊されました。発刊にあたり愛知県自然観察指導員連絡協議会会員が協力し、調査・執筆を担当しています。

「森」「植物」「夏の虫」「水辺」などのテーマに分け、理解しやすい内容となっています。

今回、当会の全会員に「協議会ニュース」と共に送付しますのでご活用ください。

■ 会員情報について

●会員の住所等変更

宇都宮真輔さん

〒496-0001 津島市青塚町3丁目132番地

中西 普佐子さん

〒440-0001 豊橋市下条西町字郷前65-1

TEL 0532-88-5763

■ 連絡先などの変更は早めに

転居・婚姻などによる住所・氏名などの変更は、速やかに事務局までご連絡ください。現在利用のメール便は、移転先への転送が不可能です。くれぐれもご注意ください。

■ 新指導員歓迎会 & 研修

＝12月24日(月・祝)＝

この秋、指導員講習会が開催され、新たに新指導員が誕生します。協議会としても多数の新指導員を迎えることになります。

来る12/24(月・休)には、見出しの通り午前は新指導員歓迎会を、午後は研修の予定をしています。内容は目下検討を重ねていますので、しばらくお待ちください。

尚、会場は JR・名鉄・地下鉄等、交通の便のよい中京大学文化市民会館(旧 名古屋市民会館)を借り上げています。乞うご期待!!

■ 自然観察指導員講習会開催

＝ 主催 愛知県に協力 ＝



愛知県が開催する自然観察指導員講習会が11月8～10日に岡崎市桑谷山荘にて開催され、地元講師として植物・動物・地質・実技指導に複数の会員が協力します。

また、講習会受講生に対して協議会への入会の意義・特典など積極的に広報を行います。これにより、協議会活動の活性化につながることができます。みなさんのご協力をよろしくお願いします。

■ 自然観察指導員講習会問合せ先

自然観察指導員講習会の受講希望の方、あるいは受講を薦めたい方がみえましたら、下記まで詳細を問合せください。

◎ 愛知県環境調査センター企画情報部 ◎

電話:052-910-5489 (ダイヤルイン)

申込期間 9月11日～10月9日(必着)

(事務局 近藤)

行事予定

■研修会

日時 10月28日(日) 10時から12時半 雨天決行

集合場所 海上駐車場(旧銭屋鉱産跡)

内容 カメムシ バッタ

講師 矢崎充彦氏 名古屋昆虫同好会所属

問い合わせ先 大谷 0572-23-6907 (kokokey@nifty.com)

<編集部からのお知らせ・おことわり・おねがい>

◎協議会ニュースは会員みなさんに、協議会・支部の行事や会員の活動状況をお知らせする媒体です。この内容についての感想やご意見をお聞かせください。また、みなさんから掲載して欲しいというものがあいましたら、編集部まで原稿をお寄せください。

なお、紙面構成の都合等で、原稿を内容を変えない程度に加筆・修正することがあります。あらかじめご了承ください。

◎平成18年5月発行のNo.106から編集スタッフをつとめていただきました吉田孝三さん(知多支部)が仕事の都合で降りられました。ごくろうさまでした。

今月号から酒井勇治さん(尾張支部)に編集スタッフに加わっていただきました。

協議会ニュースの編集あるいは発送をお手伝いいただける方が見えたら、ぜひお申し出ください。

◎現在、西三河支部の奥居達朗さんが執筆されている「観察会あれこれ」部分を、No.116の1月号から1年間(6回分)執筆していただける方を募集しています。

編集後記

■No.114の編集を終えてほっと一息ついたところです。

■それにしても、猛暑が続きますね。8月16日に多治見で最高気温40.9℃を観測し、74年ぶりに日本記録更新です。気候変動(温暖化)の影響もあるのでしょうか。

■温暖化で気温だけに目を奪われそうですが、ほかにも自然に関しいろいろな変化が生じているのではないのでしょうか。そのような情報を集めて、協議会ニュースで紹介できないかと思っています。(齋竹)

編集スタッフ

岩沙 雅代
近藤 記巳子
酒井勇治
横井 邦子

岡田 雅子
齋竹 善行
永田 孝

協議会ニュース編集部

〒482-0007

岩倉市大山寺元町 12-3

齋竹 善行

Eメール: BZA03620.nifty.ne.jp

■愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 名古屋市中南区烏栖 2-6-17 桜本町 CH101

近藤 記巳子

Tel/Fax 052-822-7460

■Web Page: <http://naichi.net/>

■郵便振替口座: 00820-9-6546 (名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会)